

無 聖

第76号

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ◆「譲り伝えん 御仏の道」 | ◆平成29年度宮曹青講演会 ……………10 |
| 会長 長谷川俊昭 ……………2 | ◆平成29年度会員大会報告 ……………10 |
| ◆第23回チャリティバザー報告 ……………3 | ◆サンタピアップみやぎ活動報告 ……………10 |
| ◆「慰霊行脚」報告 ……………4 | ◆第42回東北地区曹洞宗青年会 |
| ◆傾聴行茶活動報告 ……………6 | 東北地方集会「青森大会」報告……………11 |
| ◆平成29年度第二回研修会 報告 ……………7 | ◆事務局だより ……………12 |
| ◆50周年企画「歴代会長を訪ねる」 ……………8 | |

第25期会長 耕徳寺 住職
長谷川俊昭



会長挨拶

護り伝えん 御仏の道

第二十五期宮城県曹洞宗青年会は「護り伝えん御仏の道」をスローガンに掲げ早いもので一年が過ぎようとしています。

平素は会員各位のご協力ご加担、県内御寺院様のご理解とお力添えに謹んで感謝を申し上げます。

創立五十周年の節目を迎える今期は、諸先輩老師が仏道を行持、研鑽を重ねられた足跡を学び、会員共々に、そのみ教えを護り伝える体現者となるべく活動に取り組んでおります。活動を振り返りますと、

○第一回研修会

平成二十九年七月七日

「現代に坐禅を普勧する」

曹洞宗国際センター所長 藤田一照老師

○第二回研修会

平成二十九年十一月二十日

「魅力的な坐禅会の企画・運営を目指して」

総合研究センター専任研究員 宇野全智師

「参禅弁道」を研修テーマに、歴代祖師方が伝えられた「坐禅」を根本に据えその理解深めつつ、より実践的な指導法、坐禅会へ向き合い方、企画運営についてご講義を頂戴いたしました。幅広い世代から参加は、「坐禅」を抛り所とする宗侶の高い意識を物語り、またその認識を深める機縁をいただいた研修会となりました。

○カンボジア教育支援 チャリティバザー

平成二十九年九月十六日

二十三日目を迎えるはチャリティバザーは三期教区御寺院様のご高配、多大なるご協力を頂戴し「松島観光文化交流館を会場に開催致しました。趣旨に賛同し来場者の方々の温かいお気持ちに感謝とこの行持の意義を再認識するバザーでした。

○宮曹青・宗務所共催ソフトボール大会

平成二十九年六月二十一日

○会員大会

平成三十年二月十九日

第一部 講演「心に響く話し方」

フリーアナウンサー 渡辺祥子氏

第二部 ボウリング大会

会員相互の交流と親睦を目的に開催しているこの行持にも、例年の多くの会員の皆様に参加をいただき、時に真剣に時に笑い合い会員の垣根を超え有意義な時間となりました。

また会員大会二部では、フリーアナウンサー渡辺祥子様を講師に迎え「心に響く話し方」と題しお話をいただきました。様々な場面を例をもとに言葉、表情やしぐさの大切さを学びながらも、会員が互いに日常のありようについて学ぶ研修となりました。

○宮曹青第十期会長 伊達廣三老師講演会

平成二十九年十二月二十日

仙台市福聚院御住職伊達廣三老師をお招きし「これからの青年僧侶に向けて」と題し、これまでの原点を振ると共に、これから宗侶としてあるべき姿、可能性についてご教授をいただきました。会発当初の活動から当時の世情まで、諸先輩老師が築き上げられたものの重みを痛感しながら、その歴史と伝統を引き継がせていただけることに感謝と責任を再認識致しました。

いずれ行持においても当会の目的「会員相互の研修と親睦」「布教教化活動の推進」を根底におき、宗侶としての自覚と、行持し続けていくことの意義を会員自らが考え、深めていく活動となりました。

○傾聴行茶活動「仏一息 ほんっといとき

平成二十九年六月二日 登米市南方

平成二十九年十一月十八日 石巻市大森

○慰霊行脚・大川小学校慰霊供養随喜

平成三十年三月十一日

石巻市大川地区

震災から七年、仮設住宅から復興住宅への移住が大詰めを迎える中、今年度の傾聴行茶活動は登米、石巻ともに最後となりました。

これから新たな地域で生活する方々のお手伝いを、その一助となる活動を考え実践してまいります。

また昨年同様に三月十一日は、県内外を問わず多くの方々に加担いただき修行させていただきました。

「記憶の風化」が危惧されている今だからこそ、宗侶として支え合い、寄り添う生き方、活動・御供養の継続が第一と決意を新たに致しました。

○サントピアアップみやぎボランティア会

ツール・フラサイン小学校贈呈

全国各地皆様から書き損じハガキのご提供、温かいお気持ちをお寄せいただいている支援者皆様のご協力和通年の広報活動が実を結びお陰様で当会通算十九校目となる小学校をこの春、贈呈をさせていただきました。

新校舎を前に、喜びに目を輝かせる児童を目の当たりにし、これからの活動の励みと継続していくことの大切を感じて参りました

○宮曹青創立五十周年記念事業

記念式典・講演会

平成三十年十一月三十日 仙台サンプラザ

記念式典・講演会・記念誌発行に向け現在、鋭意準備を進めております。

結びに、今後とも会員各位、県内御寺院様の益々のご協力・ご理解のほど、何卒お願い申し上げます。

合掌

カンボジア教育支援

第二十三回チャリティバザー 報告書

今回で二十三日目の開催となったカンボジア教育支援チャリティバザーを、会場教区として快くお引き受け頂きました第二教区の「寺院様はじめ、青年会様、寺族会様、協力団体様のご理解とご協力のもと無事開催することができました。三教区の皆様には半年以上も前より準備を進めて頂き、会場の選定や広報活動など多大なるご尽力を頂きました。当日は大勢の方に来場頂きほぼ商品が完売できましたことは、ご協力頂きました皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

また、外誘導係に人数を多く配置し、玄関前誘導係との連携をうまく取れたことで混雑もなくスムーズに誘導することが出来ました。

今期の宮曹青のスローガン「護り伝えん 御仏の道」という思いのもと、バザーに向けて会員丸となり準備に準備を重ねてまいりましたが、委員会の確認不足があり各部署にご迷惑をおかけしたところ心よりお詫び申し上げます。しかしながら、先輩方が続けてこられたこの活動を絶やすことなく、次の世代にも伝承していき、カンボジアの子供たちの為に微力ながら支援していく所存です。次年度も今年度の反省点を踏まえ、さらなる円滑な運営を目指して参ります。

(ボランティア委員長 長尾靖樹)



開催日時	平成29年9月16日(土) 午後10時00分整理券配布 午後12時30分開場 午後1時30分(販売開始) ~ 午後2時30分(販売終了)
開催会場	「松島町文化観光交流館」アトレールホール(会場教区:第3教区)
参加者	163名(前日準備含む延べ人数) ・9月15日(準備会)合計 91名 ○内訳:宮曹青会員75名、会場・第3教区(寺族会)10名・協力企業6名 ・9月16日(当日)合計 72名 ○内訳:宮曹青会員60名、会場・第3教区(寺族会)6名・協力企業6名
来場者総数	292名
販売商品数	5,047点
総売り上げ	¥1,247,400円(商品売り上げにエコバック売り上げを足した金額) ※売上金は、全額サントピアアップみやぎボランティア会へ寄付
商品売り上げ	¥1,234,300円
エコバック売上	¥13,200円
会場募金	¥18,682円(秋田・九州豪雨災害)
サントピア会場募金	¥2,940円

全国曹洞宗青年会・宮城県曹洞宗青年会 共催
『慰霊行脚』報告

開催日時 平成三十年三月十一日(日)

場 所 慰霊行脚 石巻市 大川地区
慰霊法要 石巻市 旧大川小学校

随喜者 二十七名

(内訳：宮曹青十六名 全曹青・他県曹青十一名)

○慰霊行脚

※集合場所海蔵庵別院様からバスで移動

海蔵庵本院様〜龍谷院様〜金谷霊園〜観音寺様
〜旧大川小まで

○慰霊法要

大川小学校遺族会主催

導師十二教区千照寺住職 矢口風寛師



→四教区東禅寺様にて新築本堂での初めての慰霊法要(四教区青年会加担)

←大川小学校慰霊法要の様子



震災から七年を迎える三月十一日、県内外から二十七名の方にご随喜賜り、大川地区での慰霊行脚、旧大川小学校での慰霊法要を修行いたしました。

数日前に行脚ルートを事前下見した際、今回の行脚で何かとご加担頂きました地元教区の前宮曹青副会長坂本頭一師より「ここもあそこも震災以前は住宅が立ち並んでいました。」と一面更地になってしまった光景を目の前に、教えていただきました。また当日には、行脚途中諷経を挙げさせていただいた龍谷院御住職さまより、大勢の犠牲者の名前が刻まれた慰霊碑として位牌堂のみ残った伽藍の前に、震災発生当時の様子を教えていただきました。

宮曹青がこれまで続けてきた傾聴行茶活動『仏一息』で出会う方々、今回の慰霊行脚で目にした光景、旧大川小学校でのご遺族の方々のお姿は、あの日起きた東日本大震災の惨さ、悲しさ、辛さを改めて私たちに教えてくださいます。

宮城県の宗侶として、これからも被災地の方々に心を寄せて活動が続けていかなければならないという意を強くした一日となりました。

最後に、今回遠方よりご随喜頂きました全国曹洞宗青年会、三重県曹洞宗青年会、いずも曹洞宗青年会、秋田県曹洞宗青年会、Teaにおきたまの皆様に心より感謝申し上げます。

事務局長 千田 祥幹



十一教区长音寺様新築本堂・震災後見つけた本尊様



傾聴行茶活動 仏一息 活動報告

〔日時〕平成二十九年十一月十八日(土) 十時~十三時 〔場所〕仮設大森団地(第四団地集会所)

今年度第2回目の傾聴行茶活動「仏一息」を石巻大森仮設集会所にて行いました。これまで第三団地にお伺いしてきましたが、仮設を出られて生活している方も多く初めて第四団地にお伺いして行いました。復興住宅等へ移られる方が増え、今回何名参加して頂けるか不安なところがありましたが、少ない人数だからこそお一人おひとりのお話をじっくり聞くことができ、和やかな雰囲気の中、活動させていただきました。また参加者の質問や疑問にも丁寧に回答することができ、時にはユーモアを交えて終始、笑顔の絶えないひと時となりました。法話も参加者は熱心に聞き入っていました。

前回に続き今回も炊き出しを行いました。活動場所が狭く、調理や配膳で難しい面がありました。前回同様、会員で工夫をしながら提供し、皆さんに美味しいと喜んでいただけました。お孫さんと一緒に来ておられた方がいらっしゃいましたが、震災後に生まれています。震災から6年。震災を経験した方々に寄り添いながら、震災を知らない子供たちに震災を伝えていかなければならないと感じた一日でした。

今回訪れた仮設住宅は来年春頃まで存続するとのこと。もう一度来てほしいとの要望もありましたので今期中にもう一度伺えたらと考えております。

〔ボランティア委員長 長尾靖樹〕



傾聴行茶活動 仏一息 活動報告

〔日時〕平成三十年三月三日(土) 十時~ 〔場所〕仮設大森団地(第四団地集会所)

今年度第3回目の傾聴行茶活動「仏一息」を石巻大森仮設集会所にて行いました。今年度最後の傾聴活動ということ、今年中に全員が復興住宅に移られるということで初めて参加の方もおられました。

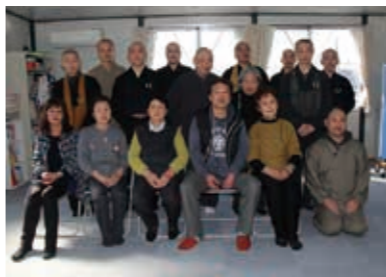
アットホームで和やかな雰囲気の中、お一人おひとりのお話をじっくり聞くことができました。また、参加者の質問や疑問にも丁寧に回答することができ、時にはユーモアを交えて終始、笑顔の絶えないひと時となり参加者は熱心に聞き入っていました。

また今回も炊き出しを行いました。ひな祭りとお別れ会も兼ね、献立を考えました。活動場所が狭く、調理や配膳で難しい面がありましたが、会員で工夫をしながら提供し、お代わりする方もいて皆さんに美味しいと喜んで頂けました。

会長のお話の中に「これで会えなくなるわけではありません。我々はいろんなところで傾聴活動をしているので見かけたらお声をおかけください。また会いましょう。」とおっしゃっていただきました。一期一会、この縁を大切にしたいと思っております。

未曾有の大震災から7年。たくさんの方々に出会い、寄り添いながら傾聴活動を行ってまいりましたが仮設住宅から復興住宅へと多くの方々に移られております。形は変わるかもしれませんが今後も寄り添っていきたくないと考えております。

〔ボランティア委員長 長尾靖樹〕



平成29年度第二回研修会 報告

去る十一月二十日、今年度第二回目の研修会を開催いたしました。講師には各方面において活躍されている宇野全智師(曹洞宗総合研究センター専任研究員)に依頼し、様々なアプローチからのご教示をいただきました。

『護り伝えん 御仏の道』の今期スローガンのもと、各寺院における坐禅会を基軸とした活動の実践について様々な具体例を学びつつ「各自の坐禅を通した布教活動が、併せて自己の研鑽となる」機縁に繋げることを大きな目的といたしました。

講義①では、総合研究センターにて実際に行われている坐禅会の実例を、スライド等で紹介しながら、運営する上での留意すべき点等をご教授いただきました。その中に、坐禅会を開催するにあつ



ての、インターネットや駅ポスター等の告知方法それぞれの利点欠点や、対象を絞ったタイトル付けと実施する時間帯の重要性等が説明がありました。我々青年僧侶が漠然と感じていたであろう疑問点をきちんと整理され、実行に移している点に非常に感心することにも、その後の内容もすべて興味深く拝聴させていただきました。

特に、複数の僧侶で運営して個々の負担を軽減するとともに、それぞれの長短を補完するやり方の推奨と、坐禅会後の茶話会等で参加者からのフィードバックを得る機会を重要とする提言は、非常に納得させられるものでした。

講義②では、坐禅会において、坐禅とともに行うことによる効果的なワークショップについて、同じく実例とともに紹介いただきました。心を解放して自己紹介をしつつ会話を進めるためのツールや、自分の考えや価値観がいかに他人と違うのかわかるためのワークなどを研修会参加者が実際に体験させていただきました。坐禅以外の方法によって仏教体験を促すワークショップの実例は、非常に効果的であると実感させていただきました。

その他、写経等においても様々な形で、効果的および継続的に実践できる提言をいただきました。

二部構成三時間の内容は、非常に濃く、示唆に富んだ内容となりました。特に講師先生からの、「寺に人が集まらないなら自分が外に出向きましょう。坐禅はどこでも出来ます。自分が動けば何かが始まります」という言葉には、非常に重みを感じました。

最後に、前回に引き続き会場をご提供下さいました林香院様、ご加担いただいた関係各位、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げ、報告に代えさせていただきます。



→講師を助めていただいた宇野全智師



青年会今期のテーマ「護り伝えん御仏の道」 五十周年企画「歴代会長を訪ねる」

インタビュー
広報編集委員会副委員長
松山 宏 成

今期創立五十周年を迎える宮曹青の歴史を訪ねるということで、その歩みを歴代会長にお伺いしインタビューを連載記事にてお届けしたいと思います。
第一回は宮曹青初代会長 通大寺東堂 金田諦典老師に伺いました「青年会の発足・原点」をお伝えいたします。

―（昭和四十四年に発足して以来の宮曹青各期役員名簿をお見せして）今期無聖で連載をするにあたって、青年会発足当時のお話を伺いたいと思います。

発足ということだが、私は昭和二十六年の春のお彼岸に大本山永平寺を送行して自坊に戻り、昭和二十七年に結制長老式、法戦式を修行したのだけれど問答は自分で用意した。正法眼蔵の各巻を基にして六十問をピンバシとやったものだ。それが県内の方丈さんに伝わっていたらうね。その頃は永平寺派だ、總持寺派だという意見が出ていた頃で、そんな中多くの若い僧侶は何かしなければという危機感を抱いていたんだ。（衛藤即應師『宗祖としての道元禪師』等、表現をめぐる対立など。）

昭和四十四年、私が四十一歳の時だったが従兄弟であった東秀院白石浩哉師（現東堂老師）が青年会の発足の相談に来た。事務局と一緒に規程案文（現東堂老師）が青年会の発足の相談に来た。事務局と一緒に規程案文
かりした和尚を探せと指示を出していたが、それなのに二回目坐禅会の際に「誰もお願いしてません」と事務局に言われ、私が講師を引き受けることになってしまった。（笑）

また、自分としては若い宗侶の皆が檀家さんをつれて坐禅会に来れば、大青年会になるぞという思いもあったのだが、最初は誰も連れてこなかった。当時は言えずにいたことではあるが、今になってその思いを持っている。とにかく坐禅会ではひたすら坐禅もしたし、眼蔵もピンバシやった。

そんなことから、十六教区で行われた大授戒会の事務局を引き受けることもあったが、それが会に頼まれたことであつたのか、元会長であつた私という人間に対して頼まれたことであつたのかは、どちらだろうね。（笑）
坐禅会の回数を重ねていくうちに参加者は増えていった。一般の参加者もちろんだったが、当寺宗教問対話というものが始まった頃で、角田の長泉寺さんでの坐禅会には林香院さんの紹介で神父さんや修道女さんも十名参加したこともあった。そこで小参問答をやったら参加者の女性がいたく感激をされた。まさしく「廓然無聖」、心が広々として求めようとする真理が無く何物にもとらわれず、聖なるものは何も無いし平等だと思つたね。その後、ある日お寺に「無聖」が届いてあつて、随分変な名前を付けたもんだと思つていたら、自分が名付けたものだった。（笑）

―宗門内の状況と、取り巻く社会の変化の中で会が発足し、全国へと広がっていったんですね。会長をご退任されてからはどのような関わりを持たれていたのでしょうか。

私は昭和五十一年にアメリカ、シアトルでの布教の依頼があり、青年会の坐禅会指導から離れていた。アメリカでは禅を伝える言葉が単語には無いので、伝えるのが難しかったし、後を頼む人を探すことなど苦労が多かつたね。七代会長までは私が坐禅の指導を続けていた。その後八代目の阿部会長さん

の作成に取り掛かり、いよいよ役職を決めるとなつた時にその席上にいたある和尚さんが「この会長でなければ始まらない！」と一喝があつたものだから、それではと会長就任となつたんだ。（笑）

宮城県青年会は当初は宗務庁とはあまり関わらずやっていた。山田恭道師（塩釜福定寺）が二代目会長に就任した時に、門脇允元師（仙台市林香院）に、宗務庁と掛け合つてもらつて私たちの団体が宗門の組織として正式に認められた、さらにその後は全国曹洞宗青年会の設立へ動いてもらつたんだ。

―現在は事業を行う委員会制度がありますが、青年会の立ち上げ時は坐禅会の運営組織が主であつたんですね。

当時の事務局は坐禅会を主体としたものだった。その後、全国曹洞宗青年会の設立に向けて当時奔走してもらつていた門脇允元師を送り出す役割も果たしていた。

第一回目の坐禅会は他所から講師をお願いしたが、思う所があり県内でした。の時代へ移つていったのだと思う。青年会で行つていた坐禅会は四十五歳以下のお坊さんの勉強会といった性質もあつたのだろう。やっぱり和尚さんの最大の眼目は上求菩提なのだと思う。しっかりと行じる私たちの姿を見せることで弘まるのが教化だろうと。

―本日は宮曹青発足当時の貴重なお話をお聞かせいただきましてありがとうございます。

インタビューで伺つた設立の経緯や運営の状況は、現在青年会を受け継ぐ我々にとって改めて学ぶことの多い内容であつたと思います。もちろん、時代とともに会それ自体のみならず社会の在り方も大きく変わつてしまいましたが、「何とかしなければ」という思いのもとに始まつたという当時を生き活きと語られた内容やご様子からは、私たちが「護り伝える」道を教えて下さつたように感じました。



平成二十九年宮曹青講演会

【期日】平成二十九年十二月二十日（水）開催

去る昨年十二月二十日、ホテルニュー水戸屋において、正会員賛助会員計三十七名参加のもと、福聚院御住職伊達廣三老師を講師にお招きし「これからの青年会に向けて」と題しまして、宮曹青の原点を振り返るとともに、これからの青年会に願う未来像について講演をいただきました。

今期宮曹青は創立五十周年を迎えますが、第十代会長の伊達老師より当時のご苦労話等をお伺いし、諸先輩方が築き上げてきたものの重みを痛感する講演となりました。

今期のスローガン「護り伝えん御仏の道」の如くに、創立から代々引き継がれてきたその歴史と精神をこれから三十年、五十年とさらに継続できるように、宮曹青として活動して参りたいとおもいます。



平成二十九年宮曹青講演会

【期日】平成三十年二月十九日開催

第一部では、渡辺祥子氏より「心に響く話し方」と題したご講演をいただきました。正会員・特別会員共に日頃人の前で話をする機会が少なくない中、表情一つ、言葉の投げかけ方一つで相手に与える印象が大きく異なることを講師先生の様々なシチュエーションを例に出されたお話から学ぶことができました。

「和顔愛語」で人々の心に寄り添うことの大切さを再確認できた大変有意義な講演会となりましたことをご報告申し上げます。

事務局長 千田 祥幹



第二部ボウリング大会は、今年度も例年と変わらぬ大勢の会員にご参加をいただきました。レイン対抗戦にチームとして和合し、プレーに歓声が沸き上がり、チャリティにも多大な寄与を頂き、大会を終えることが出来ました。

第三部懇親会・ボウリング大会表彰式においては、第二部からの雰囲気もあり、会員相互の親睦もより一層深まり、盛会のうちに終えたことをご報告申し上げます。

交流事業委員長 八巻 英成

宮曹青主管 カンボジア教育支援活動 「サンタピアップみやぎ ボランティア会」

新校舎「トゥールクラサイン小学校」を寄贈

カンボジアスタディツアー開催

●期日：平成三十年三月二十六日～三月三十一日

●参加者：十八名

この度、通算十九校目の小学校を贈呈させていただきました。詳細は後日発行致しますニュースレターにてお知らせしますとともに、サンタピアップ総会時の報告会では、映像を交えて現地での様子をお伝え致します。

【平成二十七年支援内容】
一棟三教室校舎・祠・文具品・スポーツ用品等



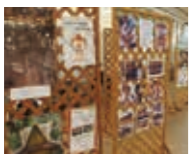
「カンボジアFMH in SELVA」開催報告

●期日：平成二十九年十二月十三日～十五日

●会場：仙台市泉区中央「SELVA」一階

●来場者：約二〇〇名（三日間連日）

●スタッフ：五十七名（三日間連日）



ご来場の方には、ホシヤマ珈琲店様提供の美味しい珈琲を

平成二十九年宮曹青講演会

【期日】平成三十年二月十九日開催

第一部では、渡辺祥子氏より「心に響く話し方」と題したご講演をいただきました。正会員・特別会員共に日頃人の前で話をする機会が少なくない中、表情一つ、言葉の投げかけ方一つで相手に与える印象が大きく異なることを講師先生の様々なシチュエーションを例に出されたお話から学ぶことができました。

「和顔愛語」で人々の心に寄り添うことの大切さを再確認できた大変有意義な講演会となりましたことをご報告申し上げます。

事務局長 千田 祥幹



第二部ボウリング大会は、今年度も例年と変わらぬ大勢の会員にご参加をいただきました。レイン対抗戦にチームとして和合し、プレーに歓声が沸き上がり、チャリティにも多大な寄与を頂き、大会を終えることが出来ました。

第三部懇親会・ボウリング大会表彰式においては、第二部からの雰囲気もあり、会員相互の親睦もより一層深まり、盛会のうちに終えたことをご報告申し上げます。

交流事業委員長 八巻 英成

飲みながら、小学校贈呈式の様子などの映像もご覧いただきました。

クラフト販売：売上合計一〇〇、五七〇円
募金：募金合計 五二、五五〇円
古本・CDなど 沢山

各イベント等での活動（サンタピアップブース設置）

各会場にて活動紹介・カンボジアパネル展示・クラフト販売・募金活動などをさせて頂きました。

「法山寺幼稚園夏祭り」

平成二十九年八月二十六日

於 石巻市法山寺幼稚園

「カンボジア教育支援チャリティバザー」

平成二十九年九月十八日

於 松島町文化観光交流会館アトレ・るHall

「宮城県梅花流奉詠大会」

平成二十九年十月五日

於 仙台サンプラザホール

「十三教区主催 演劇 焼け跡から」

平成二十九年十一月十九日

於 石巻市渡波小学校



「ハガキリサイクルキャンペーン」中間報告

「もったいない」そのころが、子供たちの明るい未来につながる。この一年間で皆様に収集頂いた書き損じハガキと切手の集計作業を行いました。全国の御支援者様より沢山のご提供を頂き誠に有難うございます。

●期日：平成三十年二月二十六～二十七日

●会場：サンタピアップ事務局

●集計作業：参加四十二名（二日間連日）



【集計結果】
○書き損じはがき：合計一七、〇二五枚
○切手：合計一〇、七六八枚
（郵便振替計八、五九二円）
○古本・CDなど 沢山

皆様からお寄せ頂いた書き損じハガキや切手は、新しいハガキや切手に変えて県内護持院様や団体企業様にご購入頂きその売り上げをカンボジア教育支援費として活用させて頂いております。

「オリジナル卓上カレンダー2018 並びにカンボジア教育支援写経」完売

今年度はカレンダーの他写経用紙も販売いたしました。どちらもお陰様で無事完売となりました。各事業収益とも教育支援費として活用させて頂きます。

●カレンダー制作販売数

三、〇五一部（一部三百円） 売上合計：九一五、三〇〇円

●カンボジア教育支援写経制作販売数

一、四五九部（一部三百円） 売上合計：四三七、七〇〇円

「古本・CDリサイクル」による支援

従来のハガキリサイクル事業に加え、皆様のご家庭にありません必要になった漫画や文庫本・CD・DVD・ゲームソフト等を集積する「古本リサイクル事業」を行なっております。是非とも私たちにお譲り下さい！
詳細はホームページ、又は事務局までご連絡下さい。

書き損じハガキ・切手の送り先

〒九八一 三三三二 仙台市泉区根白石町東5

泉根白石郵便局留「サンタピアップ」宛

支援金の送り先

郵便振替口座

名 義 サンタピアップみやぎボランティア会

口座番号 0229016148744

サンタピアップ事務局

〒九八一 三三三二

仙台市泉区根白石字町西上二七 満興寺内

TEL：〇三三 二七六 一三九二〇（専用）

FAX：〇三三 二七九 四九五七

E-mail：info@santapi.com

第四十二回東北地区曹洞宗青年会
東北地方集会「青森大会」報告

平成二十九年十月三十日(月)青森県八戸市涼雲院様本堂において第四十二回東北地区曹洞宗青年会 東北地方集会 青森大会「響縁」が開催されました。

第一部「共縁」 トークセッション「アカペラワークショップ 北山陽氏(ゴスペラーズ)

第二部「響縁」 東日本大震災物故者慰霊・復興祈願「萬灯供養」法要

引続き「追悼復興コンサート・キャンドルナイト」

当日は東北各県曹青会員二六〇名が来場され、当会からも十九名が参加いたしました。



事務局だより

宮曹青

◎定例総会

日時…四月二十日(金)午後四時
場所…ホテルニュー水戸屋

全日仏青

◎第九回現代の僧侶を考えるワークショップ 宮城大会

日時…四月三日(火)午後一時
場所…仙台市 浄土宗 常念寺

題名 「境内の猫たち」

「一昨年の春、あれは飼っていた黒い雄猫の四十九日でした。近所の野良猫や飼猫達が山門に集まり、亡き黒猫が仕切っていた境内の縄張りを巡って大喧嘩が繰り広げられました。やがて一匹のサボトラのオスがほかのドラ猫達を蹴散らし、山門の前でゴロ寝をしていました。よく見ると黒猫の憎きライバルでした。 続く」



…七十六号掲載
第八教区 皆伝寺内

天野 宏心

◎仏法興隆花まつり千僧大般若転読法要

日時…四月二十六日(木)
場所…奈良県 東大寺

全国曹洞宗青年会

◎定期総会・中央研修会

日時 五月十八日(金)
場所 東京グランドホテル

編集後記

広報編集に携わり一年が過ぎようとしております。慣れない編集作業を苦労しながらやって参りました。

平成三十年度は宮曹青五十周年を迎える年です。長年の経過を経て今に至る歴史を探して行きたいと思えます。

〈広報編集委員長 吉田 義弘〉

表紙写真



慰霊行脚の様子



無聖 第76号 (平成30年4月20日発行)

表紙題字 宗務所長 小野崎秀通 老師
編集 宮城県曹洞宗青年会
発行人 長谷川俊昭
事務局 宮城県仙台市泉区
山の寺2-3-1 洞雲寺内
TEL 090-2849-3830(専用)
FAX 022-372-3427
URL http://miya-sousei.com
E-mail info@miya-sousei.com